

登山・登攀の記録

北アルプス 黒部別山大タテガビン南東壁正面壁露草ルート～三ノ窓尾根～劔岳

日時:1997年12月24日～1998年1月9日

メンバー:伊藤達夫(コーチ)、富澤隆一郎、

概要:大タテガビンから劔への残された課題、三ノ窓尾根からチンネの登攀を計画した。無雪期に3連敗し、一度も完登できていなかった大タテガビン南東壁の露草ルートを首尾よく完登し、三ノ窓へも余裕をもって着いたが、悪天候に捕まり、チンネの登攀どころではなく、早月尾根から下山するのが精一杯の結果になってしまった。振り返ればチャンスがなかったわけではなく、判断が甘かったということだろう。山行全体をうまくマネジメントすることができていなかったと感じた。

記録

12月24日 晴

アルペンラインゲート(5:35)－黒部ダム(9:00/20)
－内蔵助谷出合(11:05)－南東壁沢出合
(12:10/50)－正面壁基部洞穴(15:45)

かつてないほど順調に進み、南東壁沢の出合で昼寝をする余裕があった。基部洞穴に着き、露草ルートの取付点までトレースをつけてから早めに寝た。

12月25日 晴

登攀開始(7:45)－5ピッチ終了下降開始(13:30)
－基部洞穴(14:30)

先は長いのでとりあえずフィックスを張る。下部破碎帯の上の中央横断バンドまで、5ピッチ登った。50 ㍎のロープ1本で4、5ピッチ目をフィックスして3ピッチ目終了点のバンドに降り、さらに、距離を計算して用意した 55 ㍎のロープを使って、2ピッチ目の終了点のテラスで一度中継して、基部洞穴の前まで降りた。楽勝で仕事を終わりこの日も早く寝た。

12月26日 晴時々曇

登攀開始(7:30)－7ピッチ終了(13:10)－8、9ピッチ目ルート工作終了(16:00)

2晩連続でほぼ 12 時間寝た。フィックスが張ってあるので、普通なら暗いうちからユマーリングというところだろうが、山行は長丁場、焦らないことがもともと大事なのでのんびり出発する。

通算6ピッチ目は氷の詰まった凹角。アイゼンでは夏のルートに入ることができず、ピンを打ちながら小ハングを越えるダイレクトなラインから登った。



露草ルート 8ピッチ目



露草ルート 10ピッチ目

7ピッチ目で露草ルートからいったん離れて鵬翔ルートのテラスまでトラバースし、荷物を置いてから8ピッチ目と9ピッチ目の凹角にフィックスを張って戻る。テラスでは雪を集めて台座を作ってテントを張った。

12月27日 晴時々曇

登攀開始(7:55)－11ピッチ終了(15:10)－12ピッチ目ルート工作終了(15:40)

朝方雪が降り壁が白くなった。10ピッチ目はピン

登山・登攀の記録

がなくなっているところがあり、ボルト打ちに時間がかかった。11 ピッチ目で鵬翔ルートに合流し、12 ピッチ目にフィックスしてから大きなテラスにテントを張る。

12月28日 雪

登攀開始(7:30) - 正面壁の頭(12:25) - 中央ルンゼ終了点(15:30) - 南尾根P5(16:25)

弱い冬型になり降雪が始まったが寒気は弱い

黒部別山 大タテガビン南東壁 正面壁露草ルート

⑩⑥	25m 右の雪壁から正面壁の頭へ
⑩⑤	45m 安定した雪壁を直登
⑩④	30m プッシュと露岩を交互に登る
⑩③	45m 細い岩稜を渡り草付の緩斜面を左へ右へトラバースして樹林帯に入る
⑩②	25m 木に登って上の岩稜に出る (このピッチから鵬翔ルート)
⑩①	35m 木登りから大木のある広いテラスへ
⑩⑩	30m ハング下の垂壁を人工で左斜上
⑩⑨	40m 右の凹角に入りハング帯の下まで
⑩⑧	40m ルートに戻り不安定なフェースを直上する 垂壁の下まで行ってボルトで確保
⑩⑦	20m 雪壁をトラバースして鵬翔ルートの大きなテラスへ
⑩⑥	45m 氷の詰まった凹角を直上 垂直の部分をハーケンを打って越え緩傾斜の雪壁へ
⑩⑤	25m 左へトラバースしてから破碎帯を越えて人工で中央横断バンドへ 右へ行って凹角の手前で確保
⑩④	25m 右へトラバースしてから被り気味のフェースを人工で下部破碎帯へ
⑩③	30m 人工で直上後左のチムニー状凹角へ凹角を登り右に出て人工で右斜上バンドに出てチムニーの下で確保
⑩②	35m トラバースしてから人工でテラスへ
⑩①	30m 逆層のフェースを垂壁の下まで確保 支点は不安定

作図：伊藤達夫 (1997年12月25日～28日登攀)

登山・登攀の記録

で大した降りにはならないと予想した。13ピッチ目で灌木帯に入り、16ピッチ目で正面壁の頭に着いた。通算20ピッチで中央ルンゼの最上部を登り、南尾根のP5に続く雪稜に出た。さらに2ピッチ頑張り、P5でテントを張った。

12月29日 晴れ

南尾根P5(7:45)－大切戸(10:20)－小切戸(14:20)－P2(15:50)

天候は完全に回復した。大切戸からP3のナイフエッジ、小キレットと順調に越えたが、あまりスピードが上がらなかったのは疲労の蓄積のせいだった。ずっと緊張していたので気がつかなかったが、正面壁の4日間にわたる登攀の疲れは相当大きかった。南峰は越えたいと思っていたのだがP2で力尽きた。夜になって雪が降り始めた。

12月30日 雪

P2(7:50)－黒部別山南峰(10:35)－西尾根分岐(13:10)－ハシゴ谷乗越(14:50)

西尾根の下りも含めて、ずっとロープをつけて行動した。ハシゴ谷乗越に着きデポの無事を確認し、そのそばにテントを張った。

12月31日 晴 <停滞>

予定より早く進んでいるので、休養のために停滞した。午後からテントのまわりを除雪しデポ缶を回収した。この日動いていればチンネを登ることができたのだが...後悔先に立たず。

1月1日 雪

ハシゴ谷乗越(8:40)－劔沢二股(12:00)

天候が悪くなった。視界が利かず雪崩が怖かったので、三ノ窓谷に入ることができず、二俣まで引き返してテントを張った。

1月2日 雪のち晴

劔沢二股(8:50)－三ノ窓尾根取付(10:00)－2200[㍉](16:50)

三ノ窓尾根に取り付き、空身でトレースをつけザックを取りに戻る方法で広いプラトーになっている2200[㍉]まで登った。

1月3日 晴

三ノ窓尾根 2200[㍉](7:20)－三ノ窓(17:40)

ロープを結び、深い雪に苦労しながら15ピッチ登



池ノ谷ガリーで確保する富澤

って、さらにラッセルして三ノ窓から小窓ノ王に向かって登り詰めたところにテントを張った。

1月4日 雪 <停滞>

二つ玉低気圧が発生し悪天候になった。

1月5日 雪

出発(7:20)－池ノ谷乗越(9:20)－長次郎のコル(11:40)－本峰(13:30)

高層天気図から悪天候が続くと判断して脱出を図ったが本峰から先に進むことができなかった。夜になってテントを放棄し雪洞を掘った。

1月6日 雪 <停滞>

朝になって雪洞が崩壊しさらに奥に再構築した。

1月7日 雪 <停滞>

偵察に出たが脱出は無理と判断して停滞を継続。

1月8日 雪

本峰(6:50)－早月尾根 2800[㍉](9:10)－2600[㍉](12:15)－早月小屋(14:00)－1600[㍉](16:35)

小康状態を捉えて脱出。2350[㍉]までロープを結んだままスタカットとコンティニューアス。そこからワカンに履き替えて1600[㍉]まで。

1月9日 雪

早月尾根 1600[㍉](7:25)－馬場島(10:30/11:25)－伊折(16:00)

伊折までワカンを履いてラッセルした。

(記／伊藤)